

岡南飛行場脱炭素化推進計画（概要）

1. 基本的な事項

○飛行場の特徴

- 標高0mの海に面した飛行場であり、定期航路はなく、不定期航空輸送（貸切輸送・遊覧飛行）や航空機使用事業、警察・消防の航空隊基地として利用されており、年間着陸回数は6,541回（令和元（2019）年度）である。

○飛行場の脱炭素化に向けた方針

- 飛行場関係事業者が一体となって、照明や航空灯火のLED化、車両のEV化、太陽光発電等の再生可能エネルギー導入などを進めることにより、飛行場の脱炭素化を推進する。

2. 温室効果ガスの排出量

区分		温室ガス排出量 [t/年]	
		2013年度	現状(2019年度)
空港施設		462	379
空港車両		20	28
空港施設・車両 計		482	404
(参考)	航空機	8	11
	空港アクセス	155	155

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

2030年：LED化およびEV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の導入に取り組む。

2050年：引き続き、EV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の更なる活用に取り組む。



その他の取組

地域連携・レジリエンス：災害時の蓄電池等の活用
意識醸成・啓発活動：ポスター掲示等